

福島県郡山少年自然の家

第1節 概要

郡山少年自然の家は、恵まれた自然環境の中で、生き生きとした野外活動や集団宿泊生活を通して、豊かな情操と社会性を養い、心身ともにたくましい少年を育てることを目的として開所され、昭和57年8月で十周年を迎え、同年10月に延利用者が50万人に達した。

学校教育、家庭教育、社会教育がもつそれぞれの機能を補完しあう社会教育施設として、次のような教育目標を掲げその達成に努めてきた。

- 自ら進んで、楽しい活動をくり広げられる人間（自主性と創造性を養う）
- 自然を愛し、人を愛する豊かな心をもつ人間（思いやりと情操を養う）
- みんなと協力し、助け合い、励まし合う人間（社会性と連帯性を養う）
- 体力を高め、健康を増進して、働くことに喜びをもつ人間（健康な心身と実践力を養う）

1 運営委員会

所長の諮問機関である運営委員会の委員は次の通りである。

氏名	役職名
今泉修蔵	福島県公民館連絡協議会会长 (郡山市中央公民館長)
●太田綠子	福島県青少年教育振興会長 (太田総合病院副理事長)
菅野久俊	福島県PTA連合会長 (福島市立福島第三小学校PTA会長)
国馬善郎	郡山女子大学短期大学部助教授
近内長次	福島県中学校長会理事 (郡山市立郡山第六中学校長)
武田亨	福島県小学校長会副会長 (郡山市立芳山小学校長)
○塙保貞	郡山市教育委員会教育長
深谷健	福島県市町村教育委員会連絡協議会常任委員 (白河市教育委員会教育長)
森永薰	福島県子ども会連合会副会長
柳沼秀雄	福島県議会議員 (文教委員会副委員長)

●印議長

○印副議長

運営委員会の開催状況

(1) 第1回運営委員会（昭和57年7月20日開催）

内容

- ① 昭和57年度事業実績について
- ② 昭和57年度利用申込み状況について
- ③ 昭和57年度施設・設備の整備計画について
- ④ 緑化事業実施状況について
- ⑤ 所運営上の諸問題について

(2) 第2回運営委員会（昭和58年2月19日開催）

内容

- ① 昭和57年度事業実績について
- ② 昭和57年度利用状況について
- ③ 昭和57年度主催事業の実績並びに実施反省について
- ④ 昭和57年度施設・設備の整備状況について
- ⑤ 昭和57年度福島県青少年教育振興会よりの助成事業について
- ⑥ 昭和58年度利用申込み（学校関係）状況について
- ⑦ 昭和58年度運営方針、重点目標について
- ⑧ 昭和58年度主催事業について
- ⑨ 給食の「おひつ方式」への移行、生活時間の改正について
- ⑩ 冬期間における利用の促進について

2 昭和57年度重点目標と成果

(1) 利用団体との連携と魅力ある施設づくり

- ① 利用団体の引率者と所員との相互理解を深め、両者が互に補完しあい指導の一体化を図った。
- ② 実技研修会や現地踏査、事前打合せ等で、引率指導者の指導力向上を図り、利用団体が主体的に活動できるよう指導援助をしてきた。
- ③ 各種研修活動内容の改善充実に努めた。特に念願だった総合活動館（サーキット設備20種目）が本年4月オープンし、利用者に大変喜ばれ研修効果を高めることができた。
- ④ 利用団体の意見や要望を当所の運営改善に反映させ、望ましい施設づくりに努めた。

(2) 施設・設備の充実

- ① 昭和47年開所以来10年が経過したので、施設・設備を計画的に整備している。特に本年度はロッジ改造工事、本館宿泊室改装工事及び本館内装工事を実施した。
- ② 野外サーキット設備等の維持補修を行い、野外活動の充実を図った。
- ③ 快適な宿泊生活、うるおいのある環境をめさし、環境緑化に努めた。

(3) 現職教育の充実

- ① 青少年教育施設の各種研修会、協議会、講習会等を通して、職員の資質の向上に努めた。
- ② 開所10周年目を迎えて、その歩みをまとめ、将来の展望にたって当所のあるべき姿を求める資料とするため、沿革誌を編さんした。

(4) 広報活動の強化

- ① 計画的な所報の発行をはじめ、各種の広報活動を積極的に行なった。また、施設や研修活動に対するアンケート結果や利用効果等も紹介し、利用の促進と啓発に努めた。
- ② 利用申込みや主催事業案内等を関係機関へ配布し、報道機関の協力も得て広報の強化を図った。